

吉野川を釣る！



(渡内川中流域)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに280種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類の魚釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在26種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

少し、月日も経ってしまいましたが、2019年の夏～秋の淡水魚の釣果をご紹介します。

今回の吉野川での目標には、サツキマスともうひとつ大きな目標がありました。

少しマニアックになるのですが、吉野川の特徴的なタナゴ亜科を釣ることです。

タナゴ亜科とは、コイ目コイ科に属する数cm～10cm程度の平たい淡水魚で、オスに鮮やかな婚姻色がでることと、二枚貝の体内に産卵する習性が知られた淡水魚です。

きれいなことから、観賞魚として人気があります。

また、関東等では、タナゴ釣りはポピュラー



(川内町の水路)

で、高級な趣味とされています。

吉野川流域では、5種類生息しています。そのなかでも、私が見たことのないシロヒレタビラを釣ることが目標でした。

雑食性の淡水の小魚をルアーで釣ることは、本当に難しく、まずは生息している場所を探すところから始めます。ウェブページや書籍から生息しているであろうところを探します。

生息している場所がだいたいわかれば、実際にその場所に行って釣れそうな場所を探します。



私の愛チャリ

ルアーで釣るためには、基本、水の流れが必要です。また、水色も汚すぎると魚が見えないため釣りにくくなりますし、きれいすぎるとルアーを見切られます。

そこで、右上のような自転車を車に積んで周辺まで行って、そこからはひたすら周辺を自



ルアーは極小1g

転車で探ります。その中で「これは！」と思われる場所(小魚が集まっているところ、支川の合流点、水路の排水口)があればやっと竿を出します。

良いところであっても、口を使ってくれずとは限りません。

あとはひたすら興味を持たせるように引き方を速くしたり遅くしたりルアーを変えたり色を変えたり大きさを変えたりして口を使ってくれすることを待ちます。

実際に口を使ってくれるのは、最初の10投までが多く、すぐスれてしまいますので、また、新しいポイントを探して自転車で放浪を繰り返します。

また、ルアーにも工夫が必要で、小さな口に針がかりさせるために針はタナゴ針(見えにくい小さいタナゴ釣り用の針)にして、赤虫に見立てた赤い糸をまいています。

ルアーも自作で1gもないものです。

さて、実釣編です。何が釣れたでしょう？

まず最初は、10cmのカワムツです。宮川内谷川で釣りましたが、この魚は、少し大きな川の中上流の淵に群生しており、もう少し大きなものだとスプーン、スピナーで良く釣れます。最大で20cm程になり、ルアーで良く釣れ、溪流では、タカハヤとともにアマゴ釣りの外道です。

アマゴより少し下流にいてこの魚が釣れると少し上流へ狙いを変える必要があります。



10cmのカワムツ

続いては、渡内川で釣った13cmのオイカワです。この魚は、カワムツと同じような川の中下流にいて、淵よりも瀬が大好きです。

口が小さくルアーで釣れることは少ないです。

極小スプーンに毛付きフックを付けて釣るとなんとか釣れます。

どちらかというとならフライによく反応しますのでフライ向きの魚かも？



13cmのオイカワ

これは、多分ギンブナ、フナ類は個体により変異が大きく、同定が難しい魚です。

沢山いて、かなり釣れましたが、こんなマニアックな釣りでなければなかなか口を使わずことは難しい魚です。

たぶん、基本的に視覚よりも嗅覚等で食べ物と認識しているようで、普通のルアーでは釣るのは困難と思われます。



10cmのギンブナ

続いて、マニアックな魚、タモロコです。この魚は、田んぼの用水路みたいなところに生息していて、この時は渡内川の中流でタモロコばかりがいるところがあり、こればかり数が釣れました。

この魚も、ルアーで釣るにはかなりの忍耐力と絶対釣るぞ！という根性が求められます。



7cmのタモロコ

次は、多分コウライモロコ【再掲】と思われる魚です。

この魚は、旧吉野川水系に広く分布しているようで、どこで釣ってもこればかりでいやになります。

最初の1匹目は、透明がかっていてとてもきれいな魚だと思っていたのですが、後では「またおぬしか〜」と恨み節がでるくらいでした。



コウライモロコ【再掲】

この魚は、見たこともない感じでしたので、一生懸命写真を撮ったのですが、帰って同定をしてみるとニゴイ【再掲】ということがわかりがっかりしたものです。

小さいサイズは、用水路にいる物なんだと妙に納得したものでした。



コウライニゴイ【再掲】

こちらは、皆さんご存じ特定外来生物のブラックバスです。あえて狙わなくてもどこかで釣れるだろうと思っていましたが、夏場に小河川を巡っていると、本当にどこにでもいて、ミノー、ワーム等で沢山釣れました。

この魚は、本当にルアーが好きで小さな池では、年に何回も同一バスを釣ったこともあります。



18cm のオオクチバス

ただし、40cmを超えるととたんに釣りづらくなり、50cmオーバーは私も数えるくらいしか釣っていません。

とまあ、いろいろな魚が釣れることは釣れました。しかし、肝心のタナゴ亜科が釣れません。

やはり、タナゴは鬼門なのか？ じつは、これまでタナゴ亜科は狙っているもののルアーでは釣ったことが無い！

それらしき、魚影は何度か発見しているのだが、なかなかヒットに結び付けることができません。

基本、冬場には、淡水の小物はルアーでは釣れません。

（餌では、釣れますが！）

令和元年の夏も過ぎだんだんと焦りの色が濃くなっていったある日のこと……

フナ形の魚がヒットしました。

あまりに小さいので、釣った瞬間、空中で針が外れ草むらに一直線。

慌てて、探すと、ん～ いつものフナと違う？



（鳴門市の用水路）

タナゴ類は、現在、数がすくなくなくなり、貴重なので慌てて、弱らせないように水の中へ。

やった、やりました。本命の「シロヒレタビラ」でした。

婚姻色が薄いのは、すこし残念ですが、念願のタナゴ亜科1種類目に感激ひとしおです。

右下の写真は、秋も深まったある日のこと、旧吉野川の支川（鍛冶屋川）にタナゴ亜科が棲んでいるとの情報を仕入れましたので、もう無理かなと思いつつも、狙ってみました。

釣り始めるとやはりいつものコウライモロコのオンパレードで肝心のタナゴ亜科はつつきますがヒットしません。

ここは、水草が生え水色もよく、小魚が沢山いていかにも釣れそうな気配がムンムンしているので、諦めずに上下流に移動してポイントを打っていきます。

結局釣れず、最初に入った鍛冶屋川樋門のところまで帰ってきてしまいました。日暮れも近づき、ここを最後の場所と決め、藻の隙間を狙います。水深は50cmもなく小魚がつついているのがハッキリ見えます。

おっと、なにか掛かりました。

平たい感じで婚姻色が出ている「カネヒラ」でした。シロヒレタビラと似ていますが、ヒレがピンクでとても綺麗です。通常はヒレにこんなに綺麗なピンクが入っていないので、他の種類かなと思いろいろと検索を掛けましたが、婚姻色（産卵期の色）ではこのような色になることが分かりました。

最後は、カネヒラと同じ日に釣れた、「ヤリタナゴ」です。

私には、同定出来なかったのですが、魚類の専門家に見て貰うとヤリタナゴだそうです。



本当に苦労して釣った 6cm ほどのシロヒレタビラ



こちらも苦労して釣った 8cm ほどのカネヒラ



またまた苦労して釣った 6cm ほどのヤリタナゴ

今号は、狙いの魚をゲットするのにかなりの時間が掛かってしまいましたが、このようにいろいろ研究し、工夫をすることもルアーフィッシングの楽しみの一つだと思います。

今回は、少しマニアックな淡水の小物釣りの様子をご紹介します。吉野川は、日本有数の魚種を誇り、ルアーフィッシングの対象魚も沢山います。これからのシーズンは、魚も活発となり釣りやすくなりますので、みなさんもぜひ釣りに行って見て下さい。

<タックルデータ>

ロッド：パックロッド6f（約1.8m）

リール：ダイワ2000番

ライン：PE0.3号 or 700カーボン0.5号

リーダー：700カーボン1号

ルアー：自作ジグ1～2g

今回、8魚種ゲット。通算34魚種となりました。次は何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー

<カワムツうんちく>

コイ目 コイ科 クセ/キブリス亜科 カワムツ属 カワムツ

棲んでいるところ：淡水魚 西日本と東アジアに分布。川や湖沼に生息。

大きさ：全長10～15cmほど。最大20cm

食べているもの：水生昆虫や水面に落下した昆虫、小型甲殻類等を補食するが藻類水草も食べるという雑食。

食べ方：最近あまり食用にはされないが、天ぷら、甘露煮にする。旬は？

・似ている魚種に少し下流域にいるヌマムツがいる。以前は同種とされていたが2003年、別種とされた。

<オйкаワうんちく>

コイ目 コイ科 クセ/キブリス亜科 ハス属 オйкаワ

棲んでいるところ：淡水魚 自然分布は関東以西の本州、九州、朝鮮半島西部、稚鮎放流で東北四国。

大きさ：全長15cmほど。

食べているもの：雑食性で、藻類や水草、水生昆虫、ミミス赤虫等を補食する。

食べ方：基本的に小さいものを食べる。天ぷら、唐揚げ、甘露煮、焼き物。旬は秋から春

・四国のものは、稚鮎の放流により広まったと言う人もいる。愛媛では、昭和8年に移植されたからショウハチと呼ばれている。河川改修に強く近年数を増やしている。

<ギンフナうんちく>

コイ目 コイ科 コイ亜科 フナ属 ギンフナ

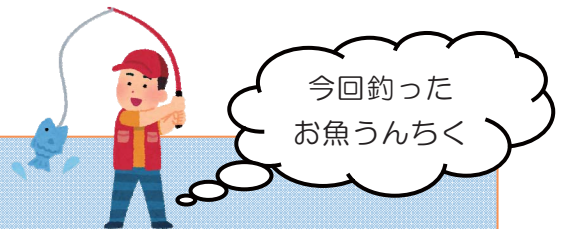
棲んでいるところ：淡水魚 日本、台湾、朝鮮半島、中国の止水、緩い河川の低層

大きさ：通常は15～20cmが大半、最大で30cmに達するとされているが、私は35cmを超えるものも釣ったことがある。今後も考察が必要と思われる。

食べているもの：雑食性で動物プランクトン、付着藻類、底生動物、ミミス等を食べる。

食べ方：塩焼き、甘露煮、吸い物、刺身、昔は重要な食用淡水魚であった。旬は冬

・無性生殖個体かいて、ギンフナの殆どがメス。



<タモロコウんちく>

コイ目 コイ科 カマツカ亜科 タモロコ属 タモロコ

棲んでいるところ:淡水魚 自然分布は、関東、東海、近畿、山陽地方、四国の一部。湖沼や小川。

大きさ:体長12cm前後となるとされている。

食べているもの:クロモ等の水草のほか、水生昆虫や浮遊動物、小型の底生動物等を食べる。

食べ方:甘露煮、佃煮。旬は？

・最近では、水田整備や河川の護岸改修等によって、生息地が減少している。

<オオクチバスうんちく>

ススキ目 ススキ亜目 サンフィッシュ科 オオクチバス属 オオクチバス

棲んでいるところ:淡水魚 原産地は北米。日本全国。色々な国に移植されている。

大きさ:体長50cm前後となるとされている。世界記録は、82.5cm、10kg日本記録も同じ10kg

世界記録は、亜種であるフロリダバス、現在フロリダバスも日本に入っている。

食べているもの:基本的に肉食。魚、カエル、甲殻類等。

食べ方:ススキの仲間であり美味。フライ、ムニエル、バター焼 旬は？

皮や内臓が臭いため、釣った直後に締め、エラ・内臓を抜く。捌く前にめめいを十分取る。

<シロヒシタビラうんちく>

コイ目 コイ科 タナゴ亜科 タナゴ属 シロヒシタビラ

棲んでいるところ:淡水魚 北上川、米代川以南の本州と九州、日本以外では中国大陸、朝鮮半島部。

大きさ:全長は約5~8cm

食べているもの:雑食だが、植物食の傾向が強く、付着藻類を主にイトミミズ等を食べる。

食べ方:絶滅危惧種なので基本的に食用にはいけず。

・二枚貝に卵を産むため、二枚貝を保護することが必要。

<カネヒラうんちく>

コイ目 コイ科 タナゴ亜科 タナゴ属 カネヒラ

棲んでいるところ:淡水魚 淀川水系より西の本州と九州北西部、日本以外では、朝鮮半島西岸。

四国のものは移入されたとされている。

大きさ:全長は約10~12cm

食べているもの:雑食だが、植物食の傾向が強く、付着藻類を主に水生昆虫等を食べる。

食べ方:鮮魚としては流通していないが、地方によっては佃煮などに加工される。旬は？

・二枚貝に卵を産むため、二枚貝を保護することが必要。

・日本に生息するタナゴ類としてはもっとも大型の種である。

<ヤリタナゴうんちく>

コイ目 コイ科 タナゴ亜科 アフラボテ属 ヤリタナゴ

棲んでいるところ:淡水魚 本州、四国、九州北部、日本以外では、朝鮮半島西岸。

四国の数少ない在来種。

大きさ:全長は約10~13cm

食べているもの:雑食で、小型水生昆虫や甲殻類、藻類等を食べる。

食べ方:準絶滅危惧種なので基本的に食用にはいけず。